

「水素普及へ連携を」

東北大・折茂氏、都内で講演

東北大材料科学高等研究所の折茂慎一所長が17日、東京都内であった中性子産業利用報告会で「水素科学技術の将来展望」と題して講演した。環境に配慮したエネルギー資源として活用が期待される水素の特性を

紹介したほか、異なる分野の技術者らと連携した取り組みの重要性を訴えた。折茂氏は水素が燃料電池に活用できる利点を説明。その製造や貯蔵に関する研究は道半ばであることを指摘した上で、「技術を深化

「水素科学技術の将来展望」と題して講演する折茂氏



させるためには中性子関連研究者ら他分野との連携が欠かせない」と強調した。

最先端の情報共有や人材交流を目的に、4月に研究者、企業など約160の個人・団体が組織する一般社団法人の研究会を立ち上げたことも報告した。

仙台市青葉区の仙台国際センターでは10月下旬、折茂氏を含む約500人の研究者が参加する水素系国際シンポジウムが開かれる。